

第1部

18:00 - 19:30

孫崎享 講演 平和的解決をめざしてー「ウクライナ問題」から「台湾問題」へー

略歴 : 1943年旧満州(中国東北部)生まれ。
66年東京大中退、外務省入省。
外務省国際情報局長、駐イラン大使などを歴任。
「日本国の正体」など著書多数。近著に「平和を創る道の探求」

今世界は激動の中にある。第二次大戦以降、世界は米国の意向により動いてきた。だがその構図は大きく変化している。その最大要因は中国である。

各国の経済力・GDPを比較するには購買力平価ベースが望ましいが、ここでは①中国は米国を凌駕している、②G7の合計GDPは非G7上位7か国合計GDPよりも低い。加えて今日、自然科学の研究論文数は、質・量で中国は米国を抜き、ハイテク分野で中国が米国に勝ることが予想される。

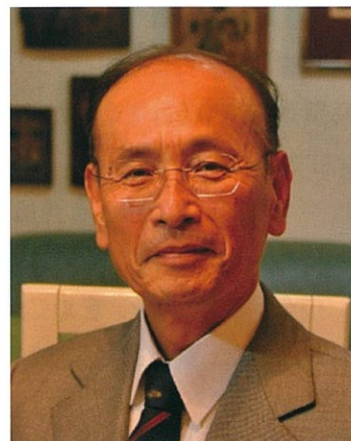
これらを背景に、国際政治で非G7の発言力は大きく増し、ガザの問題、ウクライナの問題で、最早、米国、及びG7の思惑で解決しない。

ウクライナ問題を見てみよう。今、ロシアは砲弾数、無人機数、兵員数でウクライナを凌駕している。この中で、ロシア軍をロシアの侵攻前の所まで押し戻すことはできない。これを踏まえれば、和平しがなく、その際は①NATOはウクライナに拡大しない、②ウクライナの東南部の帰属は住民の意思で決めることが軸となろう。

我々にとっての最大関心は台湾問題である。台湾問題では1972年、「日本国政府は、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であるとの立場を十分理解し、尊重する」としている。米国もほぼ同様の約束を1970年代に行っている。日米が「台湾は中国の一部である」という立場を十分に認識して行動すれば、台湾問題は解決する。

仮に軍事的に解決しようとするれば、台湾周辺では、米国は中国に負ける。今日でも空中を制する者は戦争を制するが、台湾で使用する米国戦闘機は、途中給油なしの場合、沖縄の米軍基地しかない。沖縄の米軍基地を破壊すれば、米軍の戦闘機は飛び立てない。

米国に追随していれば、日本の安全と繁栄が確保できる時代は終わった。ロシア、中国、北朝鮮と莫大なミサイル、核兵器を保有している国に囲まれた国は、軍事でなく外交で平和を保つしかない。そして重要なことは外交での解決が可能で、多くの場合、その土台が過去に築かれている。



- とき 2024年11月1日(金) 開場 17:30 開演 18:00 終演 20:30
- ところ パレット市民劇場
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地1丁目1番1号 パレットくもじ9F
- 入場料 (資料代他を含む) 2,000円 学生:1,000円
- お申込みはFAXでお願いします。FAX番号:098-867-3294
- 主催 沖縄の基地と行政を考える大学人の会
- 共催 沖縄タイムス社、琉球新報社
- 後援 沖縄人権協会

第2部

浜野与志男「音楽からみたウクライナとロシアの関係・・・民族感情を語り、弾く」

19:40-20:30

浜野与志男はロシア人の母親をもち、日本語、ロシア語、ウクライナ語、英語、ドイツ語を使うことのできるマルチリンガルなピアニストです。また、父親はながく日本とロシアの貿易に従事した後、モスクワやキルギスの日本センターの所長を歴任し、その傍らにあつて浜野与志男も年少の頃より世界の情勢に関心を抱き、バングラデシュ支援チャリティーコンサートなども企画・実施してきました。

ピアノ演奏に関しては、エリソ・ヴィルサラゼ、ウラジーミル・トロップなどロシア人音楽家から薫陶を深く受けているだけでなく、ウクライナの音楽作品にも通じ、日本初演を行なったピアノ曲もあります。

今年35歳の浜野与志男は、日本音楽コンクール優勝など輝かしい経歴をもつピアニストであるとともに、多様な言語に通じ、世界の情勢に目を開きつづけてきた気鋭の人材です。

ウクライナとロシアをめぐって、その音楽について、人々について、メディアのニュースとは異なる視点で語ってくれるでしょう。また、演奏曲目についても鋭意検討中です。

2024年7月5日

岡田敦子 ピアニスト 東京音楽大学副学長



《浜野与志男 略歴》

日本とロシアにルーツをもつピアニスト、ウクライナ難民支援・復興支援に携わる団体や個人の活動をサポートしている。

日本音楽コンクール第1位、マルメ北欧ピアノコンクール第1位、アルマトイ国際ピアノコンクール第2位、野島稔・よこすかピアノコンクール最高位。日本フィル・サントリーホール定期演奏会やロイヤル・フェスティバル・ホール(ロンドン)、モスクワ音楽院ラフマニノフホール、東京オペラシティ『B→C』、シャネル・ピグマリオン・デイズ、浜離宮朝日ホールでのソロリサイタルをはじめ演奏活動を行う。近年はローム ミュージック フェスティバル出演や神尾真由子(ヴァイオリン)、イシュトヴァーン・コハーン(クラリネット)など室内楽の共演も多い。

東京藝術大学音楽学部を経て英国王立音楽大学大学院にて修士号、アーティストディプロマを取得、モスクワ音楽院にて研鑽を積んだ。これまで岡田敦子、エリソ ヴィルサラゼ、故・エレナ アシュケナージ、故・御木本澄子、ヴァディム サハロフ、ニキータ フィテンコ、ドミトリー アレクセーエフ、ゲラルド ファウトほかの各氏に師事。

東京音楽大学講師、東京藝術大学音楽学部非常勤講師を経て2022年より東京音楽大学専任講師を務め、ワシントン国際ピアノフェスティバル(アメリカ・ワシントン D.C)やタレントミュージック・サマーコース(イタリア・ブレーシア)をはじめ国内外の音楽祭や講習会、コンクール審査にも例年招聘されている。パシフィック・コンサート・マネジメント所属。

呼びかけ人一覧

沖縄弁護士会

新垣 勉、大城純市、大田朝章、垣花豊順、
島袋秀勝、当山尚幸、中野清光、中村照美、
三宅俊司

沖縄の基地と行政を考える大学人 研究者・運動家の会

石原昌家、大城松健、岸本洋平、土屋源太郎、
川瀬光義、川村 湊、清川紘二、桜井国俊、
照屋寛之、仲地 博